

令和7年度仁淀川清流保全推進協議会

第2回川本来の生態系を取り戻すワーキング 要旨

日時：令和7年8月22日（金）10:00～12:00

場所：佐川町役場 2階 中会議室1（高岡郡佐川町甲 1650-2）

出席者：9名

所属等：横倉山自然の森博物館、高知大学名誉教授、株式会社相愛、水生生物研究家、によど自然素材等活用研究会、仁淀川の緑と清流を再生する会、衛生環境研究所、事務局（高知県自然共生課）

1 議題

- (1) カジカガエルの鳴き声調査について（協議）
- (2) 水生生物調査について（協議）
- (3) 勉強会のテーマについて（協議）
- (4) その他

2 資料

資料1 カジカガエル鳴き声調査関係

資料2 水生生物調査資料

資料3 川本来の生態系を取り戻すワーキング 勉強会（素案）

3 主な協議内容

- ・カジカガエルの鳴き声調査の参加者を増やすための取り組みの検討
- ・水生生物調査結果及び指標種標本の活用の検討
- ・清流モニタリング調査地点の見直しについて
- ・仁淀川の生物多様性の確保に向けた勉強会のテーマ等について

4 協議結果（今後の取組の方向性等）

- (1) カジカガエルの鳴き声調査について
 - ・広報活動の強化（環境学習やイベントで参加の呼びかけ、来年度以降観察会の開催）
 - ・四国自然史科学研究センターとの連携（情報共有）
- (2) 水生生物調査について
 - ・大学の学生などへの研究利用の促進
- (3) 勉強会のテーマについて
 - ・テーマ：
 - 「仁淀川の水生生物調査のデータ分析結果概要」
 - 「四国のオオサンショウウオの生態系への影響」
 - ・開催日時：令和8年2月16～20日のいずれかの平日1日
 - ・会場や共催団体については、仁淀川流域交流会議に打診していく方向性
 - ・参加人数：先着100名を想定
- (4) 次回以降のワーキングの開催について
 - ・12月頃に開催（We b可）

【議題概要】

事務局	【カジカガエルの鳴き声調査について】 2023 年度のカジカガエル鳴き声報告は、仁淀川町で学校や美化活動の際に周知してもらったこともあり、100 件以上の報告があった。カジカガエルの鳴き声を知らない人がまだまだ多く、自発的な参加が少ない状況。より広範囲な調査のため、周知方法の改善が必要。 →（意見） 環境パスポートアプリのトップページにカジカガエルの鳴き声調査の情報を掲載することはできないか。 また、夏休みの宿題の自由研究のテーマの一つとしてカジカガエル鳴き声調査のビラを学校の小学生向けに配布できないか。 →（意見） カジカガエルの鳴き声調査をイベント的に実施しないと自発的な参加は難しいのではないかと。環境学習や、観察会などで定期的に鳴き声調査を実施する必要があると思う。 →（座長） 四国自然史科学研究センターが来年カエルの調査をするという話がある。そこでカジカガエル鳴き声調査も組み込めたらと思う。連携して、調査・広報活動を強化していきたい。
事務局	【水生生物調査について】 現在、衛生環境研究所に保管されている標本の活用方法、昭和時代からの水質調査結果と、現在の清流モニタリング調査の比較分析について検討したい。 →（座長） 標本の活用方法としては、大学での研究利用が考えられる。学生の卒論や研究に役立ててもらえれば、標本が有効活用できると思う。 →（意見） 現在のモニタリング調査は、「高知県四万十川の保全及び流域の振興に関する基本条例」に準じて同条例に規定している 40 種類の水生生物の有・無のみで判定する簡易的な調査なので、過去の詳細な調査結果と比較するのは難しい。今後、環境 DNA 調査などの新たな技術を活用することで、効率的にデータ収集ができるようになるかもしれないが、実用化するのは何年か先になると思う。
衛生環境研究所	【清流モニタリング調査地点の見直しについて】 現在調査している 10 地点は今後大きく数値が変わることがないと思われるため、調査地点の見直しまたは調査地点の絞り込みを検討したい。特に、下流域（波介川（上流）、奥田川及び宇治川）については、平成 27 年度から追加地点となり現在まで 10 年超、継続して調査を行っている。十分データも蓄積されたため終了してはどうか。また、本川でも距離の離れていない地点（中仁淀沈下橋、柳瀬）については同じ理由で片方（柳瀬）を終了してはどうか。 終了した地点の代替として、観光地として注目されている地点（中津溪谷、安居溪谷及びにこ淵等）で調査を行うのはどうかと考える。仁淀川の上流がなぜ「仁淀ブルー」と言われるほどきれいなのか、調査をしてみたいと考えている。

事務局	→（意見） 川が汚れていくのは、人との関わりで汚れていくことが多い。そこをきちんとモニタリングしていくことが重要だと思う。そのため、人との関わりが多い下流は残した方が良く考える。 →（意見） 取り続けている基礎データは、途中からなくなると、そのあと使えなくなる。データを取り続けることは、それだけでも意味がある。一方で、10年以上調査して一定データが集まっているため、毎年調査していたものを、5年に1回や10年に1回というように調査頻度を見直すのは良いと思う。 →（意見） にこ淵は、観光客にも環境問題について考えてもらうきっかけとなる場所として、調査対象にするのは良いと思う。 →（事務局） 本日の協議内容も踏まえて、次のワーキングの際に改めて検討できればと思う。 【勉強会のテーマについて】 今年度開催を予定している勉強会のテーマ等について協議したい。勉強会テーマは「仁淀川の水生生物調査のデータ分析結果概要」と「四国のオオサンショウウオの生態系への影響」の各45分間ずつを想定している。開催日は2月16日から20日の間の平日で、参加者を先着100名とし、オンライン配信も検討する。学生や農業関係者など、幅広い層への参加を呼びかけたいと考えている。 →（意見） 仁淀川流域交流会議に共催を依頼し、今年度の事務局がいの町のため、会場はいのホール、開会あいさつはいの町長にお願いしてはどうか。 →（意見） 最近、川にアユ以外の魚があまりいなくなったと感じている。陸上では蜜蜂が減った。原因の一つは除草剤だと考えている。農薬自体は昔に比べれば大分規制が強くなったので減ってはいるが、川に流れている農薬の調査はされないのか。 →（事務局） 四万十町の生姜農家さんの低農薬栽培の取り組みは環境保全と農業の両立という観点から注目されている。今年度の勉強会のテーマは決まっているが、川と農薬の関係についても来年度以降の勉強会でやっていきたいと考えている。 →（意見） 今度、環境と農業について講義予定であるが、そこで、環境を守りながら農業をすることが、付加価値の商品を生み出していることを伝えたいと思っている。現在は、無農薬であるということでその商品がブランディングされている。遠回りかもしれないが、農薬を減らすことが売りに上げに繋がるという、農薬を積極的に減らす方向を、経済的な側面からアプローチするのも一つの方法かもしれない。
-----	--

閉会